

西日本学生ハンドボール選手権大会における
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策ガイドライン
(参加基準、大会実施基準等)

2022年1月以降の第6波を受けての全国的なまん延防止措置が取られ、3月にはその措置も解除されましたが、依然続く感染症の拡大状況と従前とは違った症状、厚生労働省からの対応の変化に鑑み、日本協会においてもガイドラインについて変更を行い、第4版が発信されています。それら現状に沿って、西日本学生ハンドボール選手権の感染拡大防止ガイドライン作成し、以下対策とします。ただし、今後の感染の状況によって、見直すことがありますのでご留意ください。

【大会の概要】

参加チーム：男子 32（東海 7、関西 13、中四国 6、九州 6） 女子 16（東海 3、関西 7、中四国 3、九州 3）

実施場所：麒麟ビバレッジ周南スポーツセンター、下松市スポーツ公園体育館

実施期間：8月9日（準備・諸会議・チーム・役員来山）

8月10日～12日 男女予選リーグ、各日 24 試合

8月13日 男女決勝トーナメント（男子 6、女子 2）男子インカレ決定戦（4）

8月14日 男女決勝、閉会式、片付け

大会参加：各チーム（選手・役員・大学関係者）の人数については、制限を設けない。

ただし、参加にあたっては、大会までの2週間前からの健康チェック、大会当日（毎日）の体調チェック表の提出が必須となります。また、体育館の滞在時間について制限を設けます。

観 客：特に制限を設けない。ただし、観客席入り口にて、体温チェック、来場者記録表（もしくは来場者一覧への情報の記入）をもって感染対策とするので、協力をお願いします。観客席については、ゾーニングを行い、チーム並びに大会関係者と接触しないようにします。さらに、館内の滞在も密をさけるために、できるだけ当該チームの応援のみとし、試合終了後は速やかに退館いただくなど、感染症拡大防止にご協力をお願いします。

応 援：声を出しての応援はできません。拍手のみとします。太鼓（鳴り物）などを持ち込んでの応援も禁止します。館内、観客席では常にマスクを着用し、隣との距離（1 席開けるなど）をとるなど感染症拡大防止に努めてください。

※なお、体育館の収容人数を超えるような状況となった場合、自治体からの入場制限など指示があった場合など、主催者の判断で入場をお断りすることがありますので、あらかじめご了解ください。参加選手のために、無事に大会が終了できますよう、ご協力ください。

試合日程

予選リーグ 3 日間 入館試合開始 2 時間前（第 1 試合は 90 分前）退館、試合終了後 30 分後

	麒麟メイン A	麒麟メイン B	麒麟サブ	下松	IN	OUT
10:00～	予選 A	予選 B	予選 C	予選 F	8:30	11:30
11:30～	予選 A	予選 B	予選 C	予選 F	9:30	13:00
13:00～	予選 H	予選 D	予選 G	予選 E	11:00	14:30
14:30～	予選 H	予選 D	予選 G	予選 E	12:30	16:00
16:00～	予選 a	予選 b	予選 c	予選 d	14:00	17:30
17:30～	予選 a	予選 b	予選 c	予選 d	15:30	19:00

試合時間：25-10-25、延長戦なし

決勝トーナメント 1 日目 入館試合開始 2 時間前（第 1 試合は 90 分前）退館、試合終了後 30 分後

	麒麟メイン A	麒麟メイン B	麒麟サブ	IN	OUT
10:00～	男子準々決勝	男子準々決勝	男子インカレ決定戦	8:30	11:45
11:45～	男子準々決勝	男子準々決勝	男子インカレ決定戦	9:45	13:30
13:30～	女子準決勝	女子準決勝	男子インカレ決定戦	11:30	15:15
15:15～	男子準決勝		男子インカレ決定戦	13:15	17:00
17:00～	男子準決勝				18:40

試合時間：30-10-30 第 1 延長、7MTC

決勝トーナメント 2 日目 入館は試合の 2 時間半前、試合開始第 1 試合は 120 分前) 退館、試合終了後 30 分後

	キリンメイン A	IN	OUT	
11:00~	女子決勝	9:00		
13:00~	男子決勝	10:30		

試合時間：30-10-30 第 1 延長、第 2 延長、7MTC

1. 【大会における新型コロナウイルス感染症対策ポリシー】

- ①全日本本学生ハンドボール連盟主催大会として、参加チーム（選手・役員・関係者）・開催地役員及び運営スタッフ、来場者および観客の安全・安心を最優先した対策を実施する。
- ②対策とは、日本政府、スポーツ庁、日本スポーツ協会、UNIVAS並びに日本ハンドボール協会、日本ハンドボールリーグから発信された基準に準拠することに加え、開催地自治体、保健所からの指示に従って作成した本ガイドラインに沿って実施する。
- ③ガイドラインの目的は感染リスクを最大限下げするために遵守すべき基準を示したものであり、全ての参加者が取り組まなければならない。
- ④感染が生じてしまった場合、感染者本人やチームが誹謗中傷など受けたくないよう、連盟を上げて守らなくてはならない。

2. 大会参加に当たって

1) 大会参加条件

- ① 大会参加チームの選手、役員は所属長（学校長等）の許可された者であること。
- ② 大会 2 日目前 48 時間以内に、PCR 検査もしくは抗原検査を受けて、陰性である者、または 3 回目のワクチン接種を受けている者（ただし、陰性証明、3 回目ワクチン接種証明の提出は求めない）。
- ③ 選手が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること（大会当日に書面で確認を行う）、できるだけ会場には来ないで、ホテルで待機し、速やかに大会本部に連絡をすること。
 - ア 体調がよくない場合（例：37.5℃以上の発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常、消化器症状（食欲不振、下痢など）や鼻汁（アレルギー性鼻炎の方では、ふだんと違う鼻汁感覚）などの症状がある場合）
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ④ 37.5℃以上の発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常、消化器症状（食欲不振、下痢など）や鼻汁（アレルギー性鼻炎の方では、ふだんと違う鼻汁感覚）などの症状があった場合には陽性者と判断されているか否かに関わらず次の A. および B. の両方の条件または、C の条件を満たしている場合のみ大会への参加が可能
 - A. 感染を疑う症状の発症後に 8 日以上経過している（発症日を第 0 日として第 8 日目以降である）
 - B. 解熱剤等の薬剤を服用していない状態で、3 日間症状が全くない（解熱・症状消失日を第 0 日として第 3 日目以降である）
 - C. 薬剤を服用しない状態で感染疑い症状が消失し、COVID-19 の感染のリスクが低いことを示す医師の診断書がある場合。（この場合も、その状態を示すため PCR 検査受検を推奨します）
- ④ 大会前に陽性者と判定された者で無症状病原体保有者については、検査陽性日を第 0 日として第 8 日目以降は大会に参加できる。
- ⑤ 陽性となった者と濃厚接触者であると保健所から指定された者（同一世帯内での感染者発生の場合も含む）については、当該感染者の発症日を 0 日として 7 日間（8 日目解除）とするが、4 日目及び 5 日目に抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合は、5 日目から解除を可能とする。

よって、それまでは大会に参加できない。チーム内で陽性者が出た時点で、大会までに濃厚接触者の判定が出ない場合においては抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した者のみ参加できる。
- ⑥ 試合当日の対応
 - a) チーム内（選手、役員）に陽性者もしくは濃厚接触者、体調不良者の判定がされた者が出た場合には、当人を除いて、医療用抗原検査キットを用いて陰性の判定の者のみ、試合に参加できる。

- b) 前の試合で相手チームに陽性者が出た場合、対戦し勝ち上がったチームは、全員が感染症の症状が出ていない及び体温が37.5℃未満であることが条件で試合に参加できる。(リーグ戦の時も同じ)
- c) 抗原検査並びにPCR検査の費用については、各チームの負担とする。また、抗原検査キットについては、大会参加時にあらかじめ準備し、持参することを勧める。

2) 大会参加(辞退)の取り扱い

- ① 大会申し込み期限(7月10日)までは、辞退のあったチームの補充は、それぞれの地区連盟にて出場チームを補うことを認める。ただし、シードチームが出場辞退となった場合には、次のシードチームが補い、シード外最上位チームがシード最下位に入る。
シード以外チームの辞退の場合には、辞退チームのリーグに補充チームが入ることとする。
- ② 申し込み期限を過ぎての辞退については、補充は行わない。
予選リーグ戦では、大会前の辞退の場合には、辞退チームを除いたチーム間での結果を用いる。途中の辞退では、対戦成績を14-0として対戦相手の勝利とする。また、予選リーグですでに行われた試合の結果はそのまま適用される。
- ③ 決勝トーナメント並びに男子インカレ決定戦での辞退については、対戦相手の勝利として、結果は14-0とする。
- ④ 大会結果について、予選リーグが終了した時点で、大会が中止になった場合には、予選リーグの結果を、決勝トーナメント1日目が終了時に大会が中止になった場合には、当該日までの結果を尊重し、インカレシード及び翌年度の西日本インカレのシードに反映させる。

3) 大会開催(基準)について

- ① 大会申し込み期限から大会開催までに、男女それぞれ4分の1以上のチーム(男子は8、女子は4)以上が参加辞退した場合には大会を中止する。
- ② 大会開始後に辞退チームが出た場合、男女それぞれ4分の1以上のチーム(男子は8、女子は4)に達した時点で、大会を中止する。
- ③ 開催地自治体、保健所から感染状況の悪化により、大会の中止要請があった場合は大会を中止する
- ④ 当該地域に緊急事態宣言、まん延防止措置が発出され、県をまたいでの往来が禁止された場合は大会を中止する
- ⑤ その他、いずれの場合も全日本学生ハンドボール連盟、西日本地区理事長、担当役員における協議において大会を中止とするものとする。
- ⑤ 大会中止に至る状況に該当した場合、大会中でも急遽中止せざるを得ない場合がある
政府による緊急事態宣言が再発令された開催地自治体ならびに近隣都道府県で感染症が拡大し、開催地県へ県外からの往来が拒否された場合。
また、大会主催者(開催地責任者)が、大会内での感染状況、地域での感染状況を鑑み、自治体、保健所からの停止命令が出ない場合でも、競技上、選手・役員の安全を最優先して、大会を中止することができる。

3. 大会での感染防止対策への協力について

1) チームが大会参加にあたって事前に取り組むこと

- ① 各チームは会への参加が決定してから、また最低でも大会参加2週間前から大会参加のための2週間体調チェックリストを記載・管理しておかなければならない。
- ② 各チーム(コロナ)責任者は全員のデータを毎日モニタリングすること、また、大会参加時には毎日来場者体調記録表等を提出できるよう準備しておかなければならない。
- ③ 新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)の登録を参加者全員が行うこと。
[アプリのインストール]

for Android



for iOS



- ④ 会場地に向けて自宅（または準ずる拠点地）を出発する前に検温を行う。
- ⑤ 喫煙は重症化のリスク因子と考えられているため、禁煙を強く推奨する。
- ⑥ 大会2週間前からの体調不良、陽性判定、濃厚接触者となったとき、参加資格に該当しない場合には、大会本部に報告、相談をしなければならない。陽性者の場合には、大会本部から当該保健所に連絡し、状況を協議した上、然るべき処置をとることとなる。
大会継続の有無、濃厚接触者の隔離など保健所の指示に従うこととなる。
- ⑦ 管轄保健所の指示で、その場での隔離となる（自宅への移動ができない）場合も、指示に従わなくてはならない。濃厚接触者の疑いがある場合も同様の処置がとられることになる可能性があるので留意すること。その場合の滞在費用などは、自己負担とする。
- ⑧ その他、大会参加者は大会期間中も大会に参加する一員であることを自覚し、新型コロナウイルスを大会に持ち込まないことはもちろんのこと、自らも感染しないよう、感染リスクの高い場所での飲食など行わないこと。敗退し、試合に参加しない場合でも、大会期間中現地に滞在する場合には、ガイドラインを遵守すること。

2) 大会参加者（チーム、大会関係者、観客）の受付時の対応

- ① 体調の確認
チーム、チーム関係者については引率責任者が様式1（来場者体調記録表）を毎日まとめて提出すること。観客も、受付にて来場者記録表（中四国学連HPに掲載）に事前に必要事項を記入し、体温が37.5℃以下であることを確認し、入場すること。また、チーム関係者及び応援は当該チームの応援が済み次第、速やかに退館するなど、館内の密防止に協力をお願いする。
- ② 受付での検温と手指消毒
受付にて、必ず検温すること（37.5℃以下でないとう入館できない）。また、競技場出入口、観客席出入り口などにアルコール消毒液を備えつけておくので、こまめに手指消毒を行うこと
- ③ マスク（不織布を推奨）の着用の確認

3) 競技上の留意点（チーム、選手・選手役員、トレーナ、競技担当者）

- ① 十分な距離の確保
運動をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離を空けること（感染予防の観点からは、少なくとも2mの距離を空けることが適当である。）
- ② 身体接触を伴う競技特性を理解し、ハーフタイムや競技終了後に洗顔、うがい、手洗い、手指消毒をするなど、感染防止に努めること
- ③ 運動中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと
- ④ タオルの共用はしないこと
- ⑤ スクイズボトル等の飲料の回し飲みはしないこと
- ⑥ ロッカー（更衣）室は更衣のみとし、15分以内の使用とする。ロッカールームでのミーティングは行わない。また、選手参集・待機所、コーチングエリアなどでは、運営者の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。また、不要な会話・接触は控える。
- ⑦ ウォームアップを行う場合は、主催者（運営者）の指示等に従い、「3密」を回避する行動をとる。
- ⑧ 競技中について以下の項目については**可能な範囲で対応**すること。
 - ・ 試合終了後のハイタッチや握手等は控える。
 - ・ 手指衛生に努めた上、共用物品の使用は可能な限り控え、共用物品については可能な限り消毒を行う。
 - ・ 交代選手等が控える場所では、可能な限り、マスクを着用するとともに、役員もマスクの着用を求める。
- ⑨ 主催者によって決められた体育館の入出時間を守る。入出時間前、退出時間後に体育館に留まることはできない。ただし、チーム役員2名まではスカウティングのために滞在を許可する。

4) 応援について

観客及びチーム関係者の応援は、声を出しての応援はできない。また、太鼓など鳴り物も禁止する。拍手のみの応援とする。

5) 大会会場ですべての方が対応すべきこと

① 手洗い場所

- ア 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意すること
- イ 「手洗いは30秒以上」行うこと
- ウ 参加者は、手洗い後に手を拭くためのマイタオルを用意すること
- エ 手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用する

② 更衣室、休憩・待機スペース

- ア 他の参加者と密になることを避けること
- イ 一度に入室する数を制限する、1回の使用は15分以内とする措置を講じること
- ウ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等）については、こまめに消毒すること
- エ スタッフが使用する際は、入退室の前後に手洗いや手指消毒をすること
- オ シャワールームの使用は不可とすること

③ 飲食

- ア 飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うこと
- イ 役員・選手とも、飲食場所は広い場所でとり、他の者と密になることを避けること
観客席での飲食も認める。
- ウ 大会中の飲食は必要最低限にとどめ、指定場所以外で行わず、周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、会話は控えめにすること
- エ 選手の飲食は、参加チームの責任において会話をせずに黙食させるとともに、ゴミはすべて持ち帰らせること

⑤ 会場

- ア 定期的に窓を開け外気を取り入れる等の換気を行う
- イ 選手同士の接触機会を減らすために滞在時間を区分けし、かつ観客との導線を確保し、実施するので、入退館時間および指定された場所での観戦をお願いする。

⑥ ゴミの廃棄

- ア 鼻水、唾液などが付いたごみは、ビニール袋に入れて密閉して縛り、ゴミを回収する人は、マスクや手袋を着用すること
- イ マスクや手袋を脱いだ後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒すること

6) 審判員、運営スタッフなどの行動管理

- ① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（当日に書面で確認を行う）。
 - ・体調がよくない場合（例：37.5℃以上の発熱、咳、喉の痛み、倦怠感、味覚嗅覚異常、消化器症状（食欲不振、下痢など）や鼻汁（アレルギー性鼻炎の方では、ふだんと違う鼻汁感覚）などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等の渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること）。
- ③ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- ④ 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ2m以上、最低1m）を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）
- ⑤ 試合中にベンチでも選手関係者席においても、大きな声で会話、応援等をしないこと。
- ⑥ イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
- ⑦ 大会中のレフェリーミーティングは一人一人の距離が保てること、換気が良く、広い場所で行うこと。。
- ⑧ レフェリーについては以下の注意をすること。
 - ・控え室は密を避けるため、当該試合と次の試合の2ペアのみが使用し、使用は15分以内とする。他のレフェリーは競技会場内での指定された席で待機する。

- ・選手、チーム役員・競技役員との握手やハイタッチ等を行わない。エアタッチや会釈で済ませる。
 - ・通信機器等を使い回すときは、必ずウイルス除去機能のあるウェットタオル等を使用する。
- ⑨ テーブル役員については以下の注意をすること。
- ・必要最小限の人員で対応。(MO、TD2、SK、TKの5名)
 - ・握手等はレフェリーと同様行わない。
 - ・筆記用具等は、個人のもを持参するが、用意されたものを使用する場合は必ず使用後消毒を行うこと。テクニカルオフィシャルはストップウォッチ、ホイッスルも持参したものを使用。テーブルの笛は、電子ホイッスル、ホーンが望ましい。
 - ・テーブルに置く機材(筆記用具なども含む)は試合ごとに消毒すること。
- ⑩ 館内では、発行されたIDカードを、常に身につけておくこと。
- ⑪ 選手に感染者が発生した時の当該試合を担当した審判員については、マスクの着用はないものの概ね2m以上の距離を取っていること、15分など長時間に及ぶ会話もしていないことから、濃厚接触者疑いとしては判断しない。また、ジャージズテーブル担当者についても、マスクを着用しており、濃厚接触者疑いとは判断しない。ただし、保健所から検査の指示等あれば従うとともに、毎日の健康チェックは怠らず、不調があればすぐに届け出るものとして、感染拡大防止に努めること。

7) 大会への移動と宿泊

- ① 飛行機や新幹線は換気状態や感染症対策も十分に施されていることもあり、利用について制限はしないが、お互いの距離を取るなど、感染防止に十分に留意すること。
- ② チーム専用の移動手段を手配することが望ましい。貸し切りバスでの移動については、車内の消毒、運転手の体調管理、車内換気など、バス会社との連携をとること、選手・役員は車内でのマスクの着用、飲食時の会話の禁止など、感染防止に努めること。
- ③ 公共交通機関を利用する場合は、感染予防の観点から、移動中のマスクの着用、手指衛生の徹底、必要以上の会話や飲食は避け、さらに可能な限りお互い距離を取りつつ座席をまとまって搭乗、乗車し、極力他の利用者との接触を避けること。
- ④ 宿泊はホテルの場合、1名1室利用とすること。旅館タイプの場合には定員の2分の1以下の人数とすること(ただし詳細は各施設の事情による)。
- ⑤ 宿泊先の各所でも手指消毒を行うこと、またエレベーター、浴場などにおいて三密の状態にならないように注意すること。特にサウナ、フィットネスルーム、バー等には立ち入らないこと。
- ⑥ 食事もできるだけ一般宿泊者とは別室できるように宿舎と連携すること。また、食事時の会話やお互いの距離、ビュッフェ形式の場合のとりわけ方法など十分に留意すること。飲食を伴う食事は厳に慎むこと(外食する場合も同様とする)。
- ⑦ 宿舎共用部(例: エントランスやワックスルームなど)では、混雑が起こらないよう譲り合って使用するとともに、人数制限など宿舎からの指示等に従う。
- ⑧ チームのミーティングなどは、ビデオ会議(オンラインミーティング)を活用し、選手らの接触を、極力避ける。対面で実施する場合は、部屋の広さ(参加者間ができるだけ2m、最低1m)や換気し、「3密」の状態とならないようにする。
- ⑨ 選手の治療やコンディショニングに際しては、多数が一度に集まらないように工夫し、部屋の換気を繰り返す。マスク・手袋・手指消毒など標準予防策をとった上で対応する。また、環境や使用する器具等の消毒を行う。
- ⑩ 風呂を利用する際は、3密を防ぎ、個々人の利用時間を短くし、速やかに退室するように心がける。
- ⑫ 宿舎からの移動もチーム専用バス(タクシーも可)及び自家用車で行うことがよいが、公共交通機関を利用する際には必ずマスクを着用し、極力会話は控えること。

- 8) コロナ感染症に関する事項はすべて「コロナ感染症対策委員会」で協議し、決定する。
※現場での判断等困難な場合には、医事委員会危機対策メンバーに相談することを推奨する。

9) その他

- ① 新型コロナウイルス感染症に関する事項はすべて主催者で構成する「コロナ感染症対策委員会等」で協議し、決定する
 - ② 大会参加者は、大会の成功を担う一員であることを自覚し、全ての大会参加者を新型コロナウイルスの感染から守るため、自らの体調管理及び会場内外での行動に最大限の注意を払うこと
 - ③ 今後、社会情勢が大きく変化し、通常の社会生活に戻るなどした場合の対応は、上記の限りではない
- 以上

全日本学生ハンドボール協会連盟 競技・審判担当部